

2024年度(第33回)セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖  
桜咲く浜名湖の湖面に集まった52人のジュニアセーラーたち



今や浜名湖の春の風物詩として定着した「セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」が、今年も静岡県立三ヶ日町青年の家（静岡県浜松市）で、2025年3月28～30日にかけて開催されました。

30年以上の歴史を持つこのレガッタからは、オリンピック選手を始め数多くの一流セーラーが世界へと羽ばたいていきました。今年も無限の可能性を秘めたジュニア／ユース世代のセーラー52名（OP初級：15艇、OP上級：10艇、ILCA4級：16艇、ILCA6級：11艇）が、北は北海道から南は四国・高松まで全国各地から集まりました。

◆冬の寒さに逆戻り。北風の中で行われた全7レース

例年、軽風から強風までバリエーションに富んだ風が吹くことの多いこの季節の浜名湖ですが、今年は冬型の気圧配置から寒の戻りとなり、三日間を通じて北西からの中～強風が吹き、各クラスともボートスピードにアドバンテージを持つセーラーが上位争いを演じることになりました。

中～強風の狭いレンジの風域となったこともあり、ILCA 級では2クラスとも全7レース中6回トップを取るという圧倒的な走りを見せた選手が優勝を勝ち取りました。一方、岸寄りの海面で行われたOP級の2クラスは、風向のシフトが頻繁に起きたためかILCA級に比べると混戦となり、特に初級では最後の最後まで優勝がわからない展開となりました。



高校生を中心に11艇がエントリーしたILCA6級。左端が優勝した田仲選手



ILCA6 級より一回り小さい ILCA4 級には最も多い 16 艇がエントリーした



大会初日は時折 10m/s を超えるブローが吹きつけ、吹き倒される艇もみられた



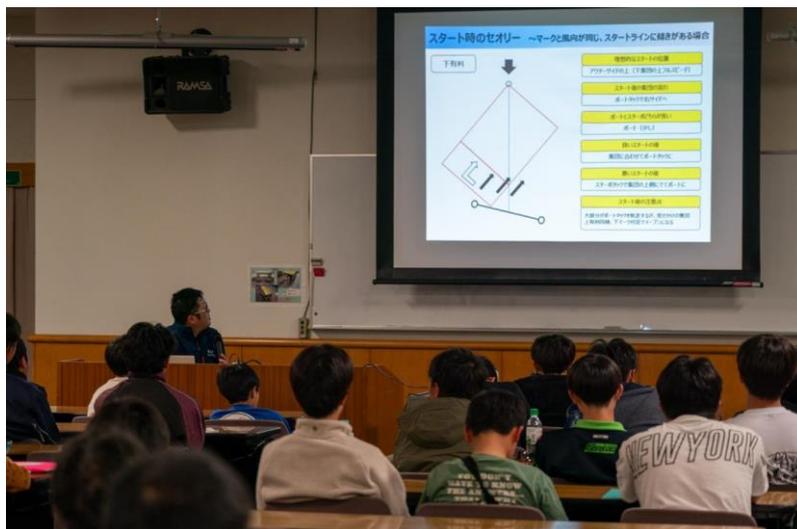
ILCA4 級の第 4 レース、後続を大きく引き離して独走する岩波将吾選手

## ◆勝敗だけでなく、上達するためのレガッタ

ヨットレースは順位を競う競技ですが、この大会は順位を競い合う単なるチャンピオンシップではなく、大会を通じて総合的な競技力を培うためのイベントとして位置づけられているのが特徴です。

今回も大会2日目のレースが終わってから、三ヶ日町青年の家のミーティングルームで日本レーザークラス協会の廣瀬一貴さんによるレクチャーが開催されました。内容はヨットレースという競技の基本的な考え方と戦略について。選手たちにとっては普段からコーチに言われている基本的な内容ですが、レースが終わった直後に聞くことで、より新鮮に心が届いたのではないのでしょうか。

少子化にともないあらゆる競技スポーツで競技人口が減少しているなか、セーリング競技も年々選手層が薄くなっているのが現状です。そんな状況の中、セーリングの楽しさと奥深さを子どもたちに伝えるこの大会の意義はますます大きくなっているはずです。



大会2日目はレース後に勉強会が行われた



大会最終日、出航前に成績表で自分の順位を確認する選手たち



全てのレースを終えてピースサインの江の島ガールズ

## ◆各クラスの優勝者

### OP 級初級優勝

岩波由夏(江の島ヨットクラブジュニア)



最終日、首位に立ったものの2位の松浦選手との差は僅か1点。最終レースで先にフィニッシュした方が優勝という厳しい状況のなか「スタートがうまくいったので、その後は2位のフネから離れないようにカバーしました」と小学校4年生とは思えないコメント。毎週末のヨットの他に週3で水泳もしているという岩波選手だが「一番好きなのはドッジボール！」なのだそう。

### OP 級上級優勝

登田直(広島セーリングスクール)



「広島は風が吹かないので、強風が吹くことが多いこの大会に姉（未央さん、ILCA4級）といっしょに出ることにしました」。普段は微風が多い瀬戸内海で練習している登田選手

だが「好きなのは強風！」と言い切る。その言葉どおり強風シリーズとなった今大会で全7レース中1位を5回、2位を2回という圧倒的なスコアで、最終日を待たずに優勝を決めてみせた。

#### ILCA4 級優勝

岩波将吾(江の島ヨットクラブジュニア)



一昨年は OP 級上級で優勝、今年は ILCA4 級で二階級制覇、しかも 7 レース中 6 回トップフィニッシュという破格のスコア。2 位だった第 6 レースは「スタート後にプロテストされてしまってペナルティーを履行した差を詰められませんでした」とのこと。普段は一階級上の ILCA6 級で練習しているが「この大会は強風が多いので優勝を狙って ILCA4 級でエントリーしました」。

## ILCA6 級優勝

田仲竜翼(三重県立津工業高校ヨット部)

中学まではバレーボールのミドルブロッカーだったという田仲選手「高校では新しい競技にチャレンジしようと思って」入部したヨット部で4月から3年生となる。「まだインターハイに出場したことがないので、最終学年の今年はなんとか部内選考を勝ち抜いて全国大会に出場したいと思います」。小学生から競技を始めた選手が多いシングルハンダー種目で下剋上を狙う。



第33回セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖はスポーツ振興くじの助成金を受けて実施しています。